

令和4年度第1回物部川清流保全推進協議会幹事会 議事要旨

開催日：令和4年7月7日（木）

場所（時間）：南国市地域交流センターMIARE! 2階 多目的室2（14:00~16:00）

出席者：【幹事】20名（代理出席含む）

【事務局】自然共生課 3名

議題1 令和3年度物部川清流保全推進協議会の取組について（報告）

事務局より、資料に基づき説明

【主な意見なし】

議題2 物部川清流保全計画の中長期目標について（協議）

事務局より、資料に基づき説明

【主な意見】

- ・ 物部川上流域の3万haを超える森林整備はボランティアで出来る量ではなく、どのように進めていくかが大事。
- ・ 清流のためには、根本的に山をしっかりと守らないといけない。
- ・ 森の保全と豊かな水量が大切であり、取り組むためには取捨選択が必要。山の保水力の回復は時間がかかる課題。流域3市を中心として、国や県と連携して取り組んでほしい。また、忌憚のない意見をお互いが言い合い、認識することも重要。
- ・ 川本来の姿を取り戻すことも大切だが、今起きている渇水対策のため、水の有効利用を考えなければいけないのではないかと。
- ・ 山林所有者の高齢化で手入れが不足している。人工林は成長に合わせて手入れをしないとダメだが、山だけの問題ではなく、人口構造や木材の搬出に伴う経済的なことなど、日本の色々な問題として対応できない面もある。

議題3 令和4年度物部川清流保全推進協議会の取組について（協議）

事務局より、資料に基づき説明

【主な意見】

- ・ 川本来の姿を取り戻すための素案の策定や数値目標がまとめられるなど、成果として評価できる。
- ・ 令和10年にアユの漁獲量30tの目標は希望の持てる数値。その目標を共感、理解し、課題を解決するためにどのように役割分担していくか議論していければよい。
- ・ 水をきれいにすることが結果としてアユの漁獲量の増加にもつながっていく。そのためにはどうすればよいか、知恵を出し合いバックアップしていきたい。
- ・ アユは清流保全のひとつのシンボルとなる。それぞれの団体が自分のプロジェクトとして清流保全推進協議会の活動に参画していければと思う。
- ・ 流域の子どもたちへの環境学習は大事な取組だが、指導者の高齢化・固定化となっているため、後継者の育成を考えなければならない。

その他（情報共有・意見交換等）

- ・ 今年のアユの遡上の状況はほぼ平年並みだったものの、水温は過去 20 年間の平均と比較して、6 月中旬以降、渇水によりかなり高い状態が続いている。
- ・ 流域の水は流域の森が守り、流域の森は流域全体で守ることが大切。水辺林の整備など、流域 3 市で構成している物部川ふるさと交流推進協議会で取り組んではどうか。
- ・ 水をきれいにするのが重要だと感じる。そのために、森林を大事にして山の方から取組を進めなければいけないが、どこから取組すれば効果的なのかが分からない。具体的なテーマを絞って議論することも必要ではないか。